医師

内部障害とリハビリテーション

リハビリテーション科 部長　田中　宏太佳

リハビリテーション医学における主な治療手段は運動療法です。医療機関における運動療法と聞いて、多くの方々は骨折後などの運動機能障害に対する治療を思い浮かべられることでしょう。現在でも、この領域の運動療法が重要なことは決して変わりません。

それに加えて、外科手術後の筋力低下や呼吸機能障害を起こさないように、手術直後から多くの患者さんに運動療法が実施されるようになってきていますし、脳卒中の救急治療で入院した患者さんに対して寝たきりにならないように入院初期から運動療法を行うことは、急性期医療を行う病院では必須の治療行為です。

一方、「内部障害」とは、病気によって心臓や腎臓などの内臓の機能が低下して日常生活が制限されることを言いますが、以前からこの「内部障害」に対して運動療法が有益であることが示されつつあり、近年では、循環器疾患や呼吸器疾患のリハビリテーションは疾患別リハビリテーションとして確立し、腎臓疾患に対する運動療法が有益なことも広く認められつつあります。

内部障害における運動療法の目的は、運動耐容能（スタミナ）や骨格筋量および筋力を改善することで、患者さんがより快適で自分らしい生活を送れるようになることです。循環器疾患の予後や糖・脂質代謝異常を含む様々な病態が改善することが多くの研究で示されています。運動が生活習慣病の予防に役立ち、健康を維持するために重要であることは周知の事実ですが、注目すべきは運動習慣によって心血管に由来する死亡が減少するだけでなく、癌などを含めた全ての死因について死亡率が低下するとも言われていることです。

近年の研究により、骨格筋は「サイトカイン」というタンパク質の一種を産生・分泌することが示されていますが、筋由来のサイトカインは「ミオカイン」と呼ばれ、糖・脂質代謝の改善、筋肥大、血管増生、抗炎症、抗酸化ストレス、抗動脈硬化、抗腫瘍性など様々な生体防御作用を発揮することがわかってきました。

内部障害に対して、投薬が主体であった従来の治療から、運動療法や栄養指導などが取り入れられるようになって、ますますチームで総合的に対応する方法論が重要になってきています。当院のリハビリテーション科もそのような観点から診療における役割を果たしていきたいと思っています。

★「フィリア・レター」は、中部ろうさい病院が、患者さんに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さんの建設的な意見を反映する広場として発刊しています。